

広報紙で振り返る

# —平成4年—

たはらの歩み **1992年**

国歌公務員の完全週休2日制スタート  
日本人初の宇宙飛行士、毛利衛さんが  
スペースシャトルに搭乗

- 4月 田原町観光情報サービスセンター（めっくんはうす）オープン
- 9月 学校週5日制（月1回・第2土曜日休み）実施

## たはら歴史探訪クラブ

路傍の石から

その2

波瀬集落の北方には、村の氏神様である雷電神社が鎮座しています。周辺には戦国時代の城館・江戸時代末の砲台（あとは残っていませんが）、伝説など、歴史ネタに事かきません。さて、この神社北側の造成後の切り通しで、地元の方が縄文時代（約1万2千年〜2千300年前）の石の矢じり（石鏃<sup>せきぞく</sup>）を拾いました。長さは3cm弱、三角形の底辺をえぐった形で、輪郭だけ見るとネズミの顔で、赤茶に灰色の縞模様が入りとても美しい色です。形を整えるために丁寧に打ちかき、鋭く尖らせています。どうしても限られた道具でこのような加工ができるのか不思議で、縄文人の技術をかいま見たような気がします。

矢じりの石材はチャートとよばれるもので、この色のチャートは渥美半島周辺では見られず、専門家によると天竜川の上流のものではないかとされています。渥美半島で見つかる矢じりの石材は地元産以外には、岐阜県、奈良県、長野県などのものがあります。驚くことに半分以上が遠くの石です。これらの石は丈夫で鋭く加工しやすい上等なものです。矢じりは弓矢の先端につけ、狩で使

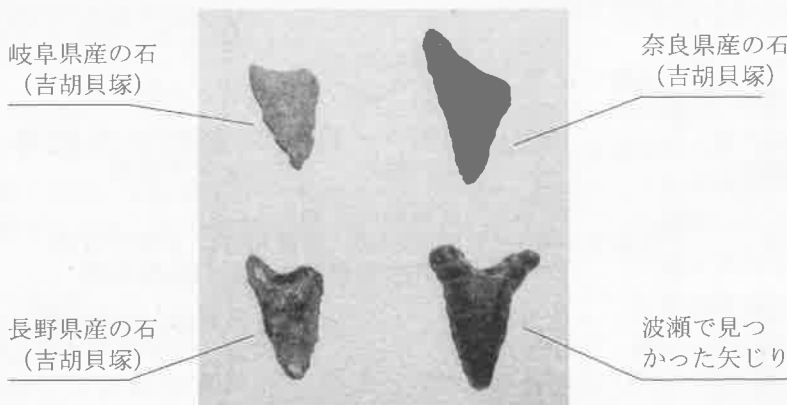
用します。弓矢は縄文時代に発達した道具で、この発明により狩の効率を高めました。そのため、良い矢じりを手に入れるのは食料確保のため重要なことでした。

それでは、縄文人は石を求めて産地まで赴いたのでしょうか、すでにあった物流のルートで交換していたのでしょうか。はつきりわかりませんが、この時代に質の良い石を得るため、遠くとの交流があったことは間違いありません。

さて、この矢じりを使った人はこの近くに住んでいたのでしょうか？今のところ生活の跡は見つかっていません。それでは、動物に向けた矢がそのまま放置され、何千年もの時を経て私たちの前に現れたのでしょうか？だとしたら見つけた人はたいへんな運の持ち主です。縄文人がな

じりを見つけたのですから。一つの石を巡るものがたりは果てしなく、興味は尽きません。矢じりは町内では大久保で3カ所、野田で3カ所、そのほか吉胡貝塚などで見つかっていますが、童浦校区では貴重な発見です。この発見は田原の歴史に「ページを刻みました。第1回目の「道に転がる石一つにも」というのも、あながち嘘ではないでしょう。

町内で見つかった矢じり



▽田原町博物館 ☎22局1720

広報たはらは、森林資源保護のため再生紙（古紙100%）を使用しています

## 今月の表紙

「花に三春の約あり」

季節の到来を告げる花はたくさんありますが、その中でもとりわけ春の花は、私たちの心を和ませてくれます。桜やシデコブシが咲いたという風の便りが届くと、なぜか胸躍る気持ちになるのは、春という季節が物事の始まりを予感させてくれるからでしょうか。

花には迷いが無いと言います。ただ咲くことを目指す花の生き方にはけれん味がありません。しかし、このままでは花も迷うような世界になってしまいう気がしませんか。

それは環境のことです。花が迷うことなく、花として当たり前前に咲くことのできるような、そんな自然をいつまでも守りたいものです。

### 【人口と世帯数】

総人口	36,880人
男性	18,870人
女性	18,010人
世帯数	11,487世帯

出生	31人	死亡	26人
転入	233人	転出	252人
増減	-14人		

（平成13年4月1日現在・増減は3月中）

【行政面積】 82.86 km<sup>2</sup>

（平成11年10月1日現在・国土地理院調べ）